

## ガバナー補佐自分を語る

### 「入会して」

国際ロータリー第2510地区  
第2グループガバナー補佐

高山 訓正 (滝川RC)



第2グループガバナー補佐を務めさせて頂いています滝川RCの高山訓正と申します。

私の入会は平成4年7月ですが、その2年前ある親睦団体に縁があり入会しました。その時友人が事あるごとに今度はロータリークラブに入り楽しい職業奉仕活動を一緒にやろうと友人と幹事予定者が訪れ来月から新入会員だと言われ驚いたこと鮮明に覚えています。

入会后新入会員のオリエンテーションまた滝川RCには木曜フォーラムがあり、フォーラムが2ヶ月に一度開始前30分～40分ロータリークラブについての講義がありその後懇親会があり有意義な時間を過ごしたことを覚えています。年4回の夜間例会がありそこでまた新たな出会いがあり、友人の優しいお酒の指導もあり私の狭い範囲の対人関係が本当に考えられないくらい広がりました。毎週の例会においてのゲスト卓話、会員卓話などで勉強させて頂きました。記念行事などにおいて会員同士の連携また指導力を発揮するのを目の当たりに見させて頂き自分の業界に大いに参考にさせて頂くことが出来ました。

ロータリーの中でイエスは有りノーは無いと言われ教育されて来ましたが、フォーラムの後の酒の席での出来事で会話の中で3年後の幹事をどうするかと問われ、その時の会長は絶対に受けないだろうと言われてきた人でしたので、乗りの話で私が引き受ける旨の会話をしていました。3年後ネクタイ姿で訪れる約束をした幹事を要請されて首を横に振れず受けてしまいました。それから地区IC委員会、会長、ガバナー補佐と縦の返事ばかり、酒の席とはいえわが身に振りかかることを言うてはいけない教訓を教わったところです。

最後に石丸修太郎ガバナー年度にガバナー補佐のお仕事をいただき第2グループの4クラブの補佐としての仕事を最後まで努力してまいります。今後ともご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

## 「ガバナー補佐 自分を語る」

国際ロータリー第2510地区

第1グループガバナー補佐

忠津 章 (羽幌RC)



### < 幼少時代 >

私は昭和23年2月12日、羽幌町より山奥に入った築別炭鉱という炭鉱町に生まれました。

父は、炭鉱に坑木を納入する木材業と炭鉱を中心に建設業を営んでいましたが、子供の頃の生活は決して楽なものではなく、石炭を輸送する際に線路脇に落ちた石炭拾い、又水道が完備されていなかったため、大きな水ガメにポンプで水汲みをさせられました。

周りが皆貧乏がゆえ、親に面倒を見てもらえず友達と山へ行って山ぶどう、コクワの実、クルミ等を取ったり、川へ泳ぎに行ったり、日の暮れるまで野球をやったり冬はスキーをして遊んでいました。その炭鉱も昭和45年に閉山し、木材業の方は当時北海道に進出して間もない、大昭和製紙（現在は日本製紙と合併）と取引、建設業の方は官公庁を主な受注先として営業を行っています。

### < 将来の進路 >

地元の小学校を卒業し、中学校へ通い始めた1年生の6月、都会への憧れから「札幌へ行きたい」と親に頼み込み、7月より親元を離れて札幌の中学校・高校へと進みました。

学生時代の楽しみの1つは、休みに親元へ帰ることでしたが、実家へ帰るたびに家では役所の人とマージャン、酒宴をしていました。この様な場面を毎日のように見て、プライベートな時間も持てない父の仕事は絶対継ぐまいと思っていましたし、かといって人に使われるサラリーマンも嫌だと思っていました。

行く行くは“一国一城の主”になろうと東京の大学の薬学部を受験し、入学致しました。

当時学園紛争が激しい頃でしたが、私はノンポリで大した勉強もせず大学生活を送っていて、今思えば良く卒業できたし、薬剤師の国家試験も受かったものと思います。

### < Uターン >

大学卒業後、将来は“薬局の主”という目標の為、千葉県にある薬局会社に勤めましたが、勤めて3年目に父が手術することになり、色々考え悩みましたが、長男ということもあり「羽幌へ帰ろう」と決心し、あれほど家業は継ぐまいと思っていた父の仕事昭和49年1月よりすることになりました。

木材業、建設業について何一つ知識も経験もありませんでしたから、まずーから勉強という思いで夏は工事現場の飯場で、朝6時から夕方6時まで、冬は掘っ建て小屋の造材飯場で寝起きしての仕事と今では考えられない働き方をしていました。

### < 新工場建設 >

日々勉強という思いで仕事をしていましたが、昭和54年9月に父が急逝し、31歳で社長に就任しました。

それまでチップ工場生産した木材チップを、大昭和製紙 白老工場まで貨車輸送をしていた為、駅近くの狭い敷地に工場が有り、貯木場も3ヶ所に分散し、工具も10人以上はいたと思います。

これらを集約し効率の良い工場を建設し移転を考え、まず用地取得の為、地元、札幌、登別の地権者と交渉し、現在地 約7町強の敷地に3人で稼働できる新工場が昭和57年12月に完成致しました。

< 青年会議所・ロータリークラブへの入会 >

羽幌へUターンして3年位たった頃、羽幌青年会議所の入会の誘いを受けました。

羽幌町に同級生、友人、知人がいなかったので2つ返事で入会を致しました。

ちょうど青年会議所が創立10周年を迎えた時で、メンバーも50人以上はいたと思います。

10周年の記念事業として大相撲の夏場所巡業を招致し、メンバー全員が土俵作りや観客席作りに夜を徹して作業し成功させたパワーと行動力に感動しました。

青年会議所卒業後、ロータリークラブに入会しましたが24年の間に、会長、幹事（2回）と大変貴重な経験をさせて頂きました。

しかし今のロータリーの活動は、青年会議所の時のように1つの事業に会員全員が携わって完成させ、達成感に浸る事業がない様に感じています。

< 終わりに >

私は、現在74歳、年明けには75歳になります。自動車免許更新も認知の検査をしなければなりませんし、ロータリークラブのことにしてもまだまだ知識も不足していますし、勉強不足です。

又、昨年6月に常務取締役の弟が他界し、今までにない忙しい毎日です。

ガバナー補佐という役割は大変重荷ではありますが、第1グループ各クラブの為、一生懸命努力して参りたいと思いますので、ご支援、ご協力の程よろしくお願い致します。